

植物標本作製の新手法の学習会

柴 正博



講師の経済産業省産業技術研究所（産総研）
岡崎智鶴子さん（左）と三田直樹さん（右）



化石や地形の模型図作製にチャレンジする

11月22日午後1:30より辻の事業所にて、植物標本作製の新手法の学習会が開催されました。この学習会では、植物標本作製の新手法とおしゃれな化石レプリカ作りの2つの学習と実習が行われました。参加者は10名ほどで、講師は経済産業省産業技術研究所（産総研）の岡崎智鶴子さんと三田直樹さんでした。岡崎さんと三田さんは、この学習会のためにわざわざつくば市から来てくださいました。

植物標本は普通おし葉標本で、乾燥した植物の標本は色もあせ、特に花は生きていたときの鮮やかな色を残していません。植物の同定で、よく見慣れている専門家が形態などの特徴を詳しく見るためには、色あせた標本でもよいかもしれませんが、一般の人が標本を見るときには、やはり植物の新鮮な色が損なわれていることは、あまりよい印象を与えないように思えます。

私は常々、植物標本の展示に関して何かよい方法で、植物の新鮮な色を損なわずに展示標本にできないかを考えていました。たまたま、大阪での地質学会で産総研（旧地質調査所）の展示会を訪れたときに、旧知の三田さんと出会い、いくつかの新手法を見せていただいた中に、岡崎さんが主になって開発した植物標本作製の新手法を知りました。そこで、いつか静岡に来ていただき、実際にエキジビジョンをしていただきたいとお願いしていま

したが、それが実現しました。

新手法は、生の植物を重ならないように乾燥剤の入った脱水・通気機能をもつ厚手のシート（販売予定のもの）で上下からはさみ、電子レンジにそのシートで挟んだまま入れて、1～2分間マイクロ波を照射します。照射が終わって、標本を挟んだシートを取り出し、そのまま空箱の上など上下に通気のよいところで10～20分程度余熱乾燥させます。電子レンジでの照射時間と余熱乾燥の時間は植物の種類とシートに挟んだ植物の量によって異なります。

学習会では、5～6回にわたりいろいろな種類の植物について、実習を行い、ほぼすべてが色や臭いを残したまま乾燥標本として完成することができました。また、シラカバやマリーゴールドなどの乾燥標本を用いたハーブティーの時間なども設けていただきました。

おしゃれな化石レプリカは、化石や地形の型に、プリンターで特別な紙（シート）に印刷した画像を、型にのりで貼り付けて転写する方法で、これは参加者が実際にシートを型に貼り付けて作製しました。貼り付けがなかなか難しく、時間がかかり苦労しましたが、出来上がるとみなさんの作成品はなかなかのものでした。ほぼ3時間にわたる学習会でしたが、参加者は時間を忘れて楽しく実習することができました。